

第 299 回研究報告会 (1 月 30 日)

神奈川県立保健福祉大学出講報告－「宗教と人間」について
高見宇造

神奈川県立保健福祉大学は平成 15 年、初代学長・阿部志郎氏（元日本社会福祉学会会長）により開学した大学で保健福祉学部を置いている。阿部氏の「対人支援を志す者は人間を超える存在を知らなければならない」という理念のもと、「宗教と人間」という科目を開講している。私は大学から請われゲストスピーカーとして「天理教の社会福祉活動」について講義をしているが、今回はその講義の報告を行った。

登録学生は 50 名だが、天理教についてはほとんどの者が教えや活動について知らない。講義ではまず「陽気ぐらし」「かしの・かりもの」「ひのきしん」など基本の教えを話し、明治 43 年の天理養徳院の開設に始まる福祉活動の歴史を紹介している。

人の子も我子もおなしこゝろもて

おふしたてゝよこのみちの人

という初代真柱の詠まれた歌を理念として、戦前・戦後から現代にいたるまで子供たちの養育、支援に努めてきた教団であることを伝えている。学生は「天理教は人をたすける教え」であると評価してくれるとともに、そこから教理にも関心を示してくれる。宗教に無関心の学生が多いなか、天理教の福祉活動を紹介することは天理教の布教伝道にとって有意義なことであるというのが報告の結論である。

第 61 回伝道研究会 (2 月 8 日)

「台湾伝道庁の活動より」

伝道研究会ではこれまで、コンゴや中南米の天理教伝道、またアメリカスの日系宗教などを取り上げてきたが、現在は「天理教海外伝道における文化活動」をテーマとして、実際に海外での伝道の現場で文化活動に携わっていた人たちを招き、活動の様子やそのなかでの課題、また布教伝道との関わりのある方などについて議論を行っている。

このテーマとしては 9 回目となる研究会では、台湾伝道庁で約 6 年にわたって書記として勤務した井手勇海外部翻訳課員が、同伝道庁の日頃のさまざまな活動や行事などを写真を通して紹介した。

伝道庁の祭典の様子や婦人会や青年会、少年会等の会活動、また災害救援活動など地域に貢献するさまざまな取り組みに触れ、そのなかに見受けられる現地の文化的要素について解説した。また文化活動として、日本語教室や刺繍教室に関しても触れ、加えて現地で日本語教員として活動する人たちとの交流会の様子なども紹介した。台湾において日本語教育の需要は高く、こうした活動は地域社会との交流にとっても重要な一役を担っていると指摘した。

最後に、伝道庁におけるさまざまな活動を通じて、日本の教会と同じような形であっても受け入れられやすいことを指摘した上で、その背景として親日的な国民性があるのではないかと締めくくった。(記：森洋明)

平成 28 年度「公開教学講座」

現代の事情に対する天理教の思案

－教えと実践、天理教学からの視点－

2 月 25 日 佐藤孝則 「再生可能エネルギー —火・水・風を生かした電力の再考」

3 月 25 日 佐藤浩司 「戦争 —和睦なるよう」

時間 13 時～ 14 時 30 分

会場 天理大学研究棟 3 階第 1 会議室

平成 29 年度公開教学講座のご案内

信仰に生きる『逸話篇』に学ぶ (3)

教祖のご在世当時、道の先人たちは教祖から直接聞いたお言葉をしっかりと心に治め、生涯、自ら信仰を生きる心の指針としました。そうした教祖の逸話は、世代を超えて語り伝えられ、お道の信仰の支えになっています。

この公開教学講座では、『稿本天理教教祖伝逸話篇』における教祖の逸話を手がかりとして、お道の信仰の世界の一端を明らかにしたいと思います。

日時 平成 29 年 4 月～ 11 月毎月 25 日 (7、8 月除く)

午前 10 時～ 11 時 30 分

会場 天理教道友社 6 階ホール